

本門戒壇の性格

長 井 辨 順

第一、戒の性格。四分律に「優婆塞を首として餘の身証者」とあるがこれから戒は法を身証する事と考へる。そこで四分律阿含聖典等に依つて仏教一般の戒の性格をみやう。(一)戒の主体は僧伽である。僧伽が法を身証する修行課程に於て戒律があるといふ見地から僧伽構成の諸條件にあてはめてみやう。(二)共住界。この世界は僧伽の生活界である。僧伽は生活を共同にし同

界内に共住するのが根本條件である。訳語の和合衆とは行事抄に戒和同修、見和同解、身和同住、利和同均、口和無諍、意和同悅の六にまとめてある。別住別衆別請別利養僧物の私有私用は禁制である。四人以上を單位とした共同生活体である。界内に小界を限り戒相當の比丘が集合して授戒作法を行ふ場所が戒壇で南伝律の註釈書にマンダラシーマ即ち功德者の聚合所の意味と懺悔清淨の場所であるから淨土思想にも通ずる。戒が主で壇は第二義的である。(三)法の身証。比丘生活の目的は法を身証するにあつてその生活態度は少欲知足頭陀行戒學懺悔愛盡威儀梵行隨順行無漏清淨行で佛陀を儀表とし依処とし如法生活に法を身証する。(四)比丘は法臘で上下座があるだけで一味平等四姓解放人権尊重が佛教の特色、その種族前職過犯貴賤上下老

幼男女を誦し衣食住利養を均等に分配し佛陀長老も特殊として除外しない。(五)懺悔法としての戒であるから罰則が表であつても凡ては懺悔で解決する。(六)戒は一人免許や親疎で左右されず三師七証は義務責任を負ふ。戒壇が功德聚たる所以もここにある。(七)律藏の戒律も經藏のそれと同じく増上戒學で三學の基礎である。(八)比丘の生活は社会と直接の関連があるのでその身証の実態は社会に影響し未信者を近づけ信行者を増長せしめる利益がある。これが佛教の正法久住の目的を達成する。以上戒の八性格は大小乗の戒に大体共通で、時処に依つて出入傍正の差はあるが凡ては受者の心掛にある。

第二、法華經の戒法門。私は淫行食肉五辛の戒律問題ひいては三學具不に対する富木氏への四信五品抄の御指南に拠つて法華經流通分の戒法門を研討する。第一法師品は在家出家聞法華一念隨喜者は如來使、如來と共宿者如來の衣座室といふ生活身証の表現で且つそれは滅後令法久住が目的であると戒の根本義が示されてゐる。第二宝塔品は宝塔涌現多宝証明淨土工作分身來集開塔興欲二佛上下並坐接諸大衆付屬有在は戒法戒壇として略整備されてゐる。これは靈山淨土の儀相である。及び戒壇は一時的な施設だけでなく究心修行成道転法輪付屬涅槃滅後流通までの一貫行であつて本品は付屬を中心課題としてゐる。隅頌には持經即持戒、若有能持即持佛身と本円戒の焦点を示してゐる。第三、提婆勸持安樂三品は序品からの九品と同様三學の

戒である。

第四涌出品は宝塔品付属有在の對手であり本口戒の主体たる本化の説明である。本化の本住所は娑婆、化主は釈尊、頭陀行晝夜常精進不染世間法端正有威徳の功徳身証の生活を本地以來本佛と共にこの娑婆本土に安住した事を説かれてゐる。本佛本化本土の共住世界で壽量品の略説である。これで戒法門は完備した。第五分別功徳品。宗祖は一念信解初隨喜の行者位は名字即、修行用心は以信代慧である。この信は三学六度の始覚修証行ではなく本覚の信証であると塩田教授の既に指摘された処である。「戒等の事を捨て」「不須復安舍利四事供養」「伝教の二百五十戒捨畢」この末法無戒論的傾向は鎌倉佛教共通でこれは原始佛教にも遡り得るといふ學者もあるが宗祖程明確な断定はない。但しこの信は本覚の信で通佛教的な三学六度の始覚修証の信でもなく行でもない。行者位は天台の修証位に依らず名字即の凡夫とし天子、天龍、以弔推徳我門人等福過十号、勿蔑如である。本覚信戒であるから金剛不壞の佛戒である。始覚の修行はないが三戒は行門である。始即本と逆転してはならない。三戒は壽量品の三大事であるから壽量品の説相から見ると、本尊抄の自然讃與四十五字法体の本因本果の法門から本覚の信行は決めるべきである。三学修証の戒行は弔や制裁が多分であるが此は因果功徳の身証色説である。分別功徳品已下法師功徳品隨喜功徳品、逆縁を扱つた不輕品でさへ信伏隨縁師弟同住の功

徳である。神力品の十神力も付属も偈頌も全部功徳で一貫してゐる。五品抄の自然益身自然当意も利益功徳で身証であり付属であり本尊抄の約束三佛受持之の文から見てもこれは本口戒法といふべきである。第五神力品の十神力は本門戒壇の顯證であり壽量品の靈山風光の再現三戒の現見である。即是道場は通一仏土中の如何なる場所も本口戒の道場である。在世は靈山道場滅後は道場即靈山淨土、即是道場とそ靈山淨土に似たらん最勝の戒壇である。神力品は上行に對し受持戒を付属する戒壇と、そを三仏に約束し久遠已來因果功徳を身証した上行に滅後末法広布の目的達成を依頼したのである。滅後末法日本に出現し釈尊上行日蓮と相承し、吾等名字の行者持経者が妙法を身証する本門戒壇の性格を左に列記する。

第三 本門戒壇の性格

- 一、戒壇の主体は本化、日蓮聖人、吾等である。
- 二、靈山淨土の世界觀は戒壇法門の主流を爲す。従つて戒法とせず戒壇とせられた宗祖の原意。本土開顯靈山往詣異体同心を含む
- 三、戒壇を功徳聚とする意味から三仏顏貌拜見三師証伴の作法も生じる。
- 四、戒法は三学を越えた本覚信の受持戒
- 五、戒法は功徳色説に身証。
- 六、無始已來の本覚的懺悔滅罪